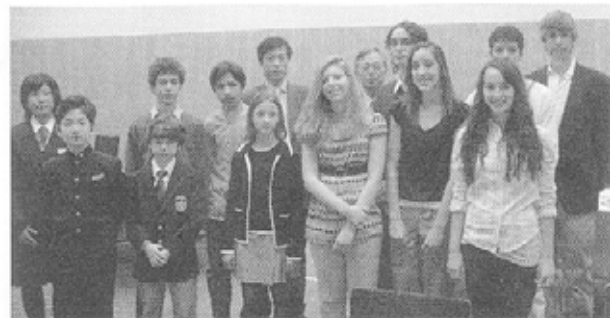




桜と校舎をバックにした新入生等

当校の二年間をベースにさらに上の応用課程等(二年間)には毎年十数名が進学します。今年度は、定員百名に對して百十四名の元氣な新入生が入学しました。大卒者数も一緒に学んでいます。モノが溢れている中で育ってきた若者にとって、「自ら工夫してものをつくる」ことは新鮮な体験ですが指導する側にとっては苦勞もあります。でも、卒業時の研究発表会で堂々と自信を持って発表している姿を見るとそんな苦勞も吹き飛んでしまいます。当校の周りを囲む桜並木は商工会議所の第三回まちづくりデザイン賞にも選ばれた桜の名所となっています。初代宮坂校長の「塀をつくらず市民の方に親しんでもらいたい」という意向と近隣の方々の協力により桜並木が守られ開放的な環境が維持されてきています。開花時には商工会議所等のご協力をいただ



世界8ヶ国の中学生等による「ジュニア労働サミット」参加者

新潟職業能力開発短期大学校は、平成四年に厚生労働省所管の工科系短期大学校として発足しました。これまでに千五百名を超える卒業生が新潟県を中心とする企業等の第一線で活躍しています。多くの学生は地元企業に就職しますが最近では関東、東海、関西等の大企業からの求人も多くなり二割ほどの学生が県外に就職しています。また、

きライトアップを行っています。写真は桜と校舎をバックにした新入生等です。昨年の年末にはクリスマスツリーのイルミネーションを行い、道行く人たちに楽しんでもらいました。ところで、「二〇〇八G8サミット労働大臣会合in新潟」が無事終わったことはご存知のことと思います。このイベントとして去る三月二十八日、G8と同じ朱鷺メッセで世界八カ国の中学生等による「ジュニア労働サミット」が開催されました。当校では、県からの依頼により会

場ロビーで訓練作品の展示・実演等を行い、参加した新潟市内の中学生に「ものづくり」について関心を持ってもらいました。また、各国代表の子供たちには、当校から刀の鐔(つば)に朱鷺をデザインしたオリジナル文鎮を製作し記念品としてプレゼントしました。本物と同じ大きさの鐔に興味津々の様子でした。



新潟職業能力開発短期大学校では、これからも地域に根ざした実践技術者の育成に努めるとともに、技術・技能の大切さを啓蒙していきたいと思っています。

新潟職業能力開発短期大学校校長 平塚剛一

新潟職能短太通信

地域に根ざした実践技術者の育成(1)

新入生と最近の話題